



3

ユーザーズ・レポート

国土交通省 東北地方整備局

官庁・道路維持管理 事務所……………宮城県仙台市太白区郡山5-6-6	<保有車両> (河川管理含む) ディーゼル車……………71台 LPGガス自動車……………1台 CNG車……………4台 ガソリン車……………6台
---------------------------------------	---



仙台工事事務所
機械課
関野 広光さん

冬場でも積雪時でもトラブルなし 道路工事の現場で活躍するLPGガス自動車

道路工事の現場で活躍するLPGガス自動車がある。国土交通省の仙台工事事務所に所属する工事標識車は、4t車のLPGガストラックに特別な架装を施したもので、平成10年度にディーゼル車代替のテストケースで導入された。現地の道路維持業者に貸し付けされ、運用している。モノを運ぶトラックとはまったく違った使われ方だが、同事務所の関野広光課長は「冬場でも積雪時でも、LPGガス自動車の使い勝手で不自由していることはありません。音が静かで排ガスもきれいだという点は、やはり大きなメリットです」と語る。

工事標識車は、道路工事が行われているそばで「道路規制」の案内役を果たす。「工事中」などの電光掲示で、交通の流れを誘導するのだ。停止した状態ではエンジンを切り、電力は車載発電機でまかなう。

「低速走行しながら、移動して車線規制する場合には、排ガスがきれいだという点が最大のメリットです」と関野課長。

同事務所では、低公害車の普及促進を目指し、散水車とパトロールカーなど運用可能なものにCNG車の導入を進めている。しかし、低公害車の普及にあたっては、「エネルギー供給のインフラ整備と車両価格が高いことが課題」と指摘する。「今後、インフラの整備や車種のバリエーションの拡大の進捗にあわせ、低公害車が増えていくこととなるでしょう」



4

ユーザーズ・レポート

仙台コカ・コーラボトリング株式会社

清涼飲料・自動販売機・商品配送 本社……………宮城県仙台市宮城野区扇町1丁目1-33 従業員数……………634名	<保有車両> ディーゼル車……………316台 LPGガス自動車……………7台 CNG車……………1台 ガソリン車……………497台
--	---



管理本部 総務人事部
広報チーム マネージャー
佐々木豊彦さん

渋滞の激しい地区への商品配送は 静かでクリーンなLPGガス自動車を使います

清涼飲料を満載したLPGガス自動車が、仙台コカ・コーラボトリングの営業所から配送作業へと出て行く。おもな配送先は、仙台市内の中心部に数多く設置されている自動販売機だ。「渋滞の激しい地域への配送なので、できるだけ排ガスのきれいなトラックで運ぼうと考えています。会社としてもISO 14001番の認証を取得しており、環境保護は最優先事項です」と、同社広報チームの佐々木豊彦マネージャーは語る。納入業者の責任としてLPGガス自動車を選び、ディーゼル車からの代替に着手した。規定の年数を過ぎた車両から順次、切り替えつつある。

「もちろんドライバーからの不満はあります。満載ではパワー不足だとか、毎回エンジンを切るので、とくに冬場は始動性が悪いとか、従来のディーゼル車では感じなかった使いにくさが伝わ

てきます。逆に、エンジン音が静かで振動も少ないので疲れにくいといった声もあります。これといったメカトラブルもありません。要は、考え方の問題だと思えますね」と佐々木マネージャー。

同社では、工場・営業所で使うフォークリフトもすべてLPGガスまたは電気に切り替えを終了した。次のステップがトラックだという。「一般的には、LPGガス自動車が環境に優しいという認識はほとんどありません。その意味ではPRにはなりません。しかし、企業姿勢は問われます。ガス補給の問題はありますが、毎年コンスタントに導入してゆきます」と抱負を語っていた。



1

ユーザーズ・レポート

有限会社 御笠環境サービス

一般廃棄物・資源回収 本社……………福岡県大野城市仲畑1丁目14-25 従業員数……………15名	<保有車両> ディーゼル車……………8台 LPGガス自動車……………1台 ガソリン車……………3台
--	--



代表取締役
車両センターマネージャー
吉嗣 雅一さん

職場環境の改善は経営者の義務 それはコストより大事なものです

大野城市でゴミ収集を行う御笠環境サービスは2トンの塵芥収集車にLPGガス自動車を導入した。そのきっかけを、吉嗣雅一さんは「ゴミ集積場に着くと、塵芥車は積んできたゴミを排出するためバックで進みます。このとき、エンジンをふかすとディーゼル車からはものすごい黒煙が出ます。ある日、塵芥車を下りて誘導していた社員が鼻をかんでいました。ちり紙が真っ黒になるくらい、鼻からススが出てくるんです。

それを見たとき、ディーゼル車を使い続けることは従業員の健康を害すると感じました」と語る。

当初、吉嗣さんが導入を検討したのはCNG車だった。しかし、いろいろと情報を集めるうちにLPGガスが「低公害燃料」であり、かつLPGガス自動車は実用的にも優れているということを知り、2t LPGガス自動車の導入に踏み切った。

「コスト計算すればディーゼル車に比べて年間13万円ほど割高ですが、従業員の間ではLPGガス自動車の評判が高い。

振動が少ないため運転していて疲れない
静かなので夜間のゴミ収集でも苦情が来ない
排ガスがきれい

などにメリットがあります」と、LPGガス自動車を絶賛する。同社のLPGガス塵芥車は毎日フル稼働している。



2

ユーザーズ・レポート

世田谷区 砧清掃事務所

区役所・清掃事業 事務所……………東京都世田谷区八幡山2-7-1	<保有車両>(平成14年度末見込み) ディーゼル車……………11台 LPGガス自動車……………28台 CNG車……………11台
-------------------------------------	--



清掃車両担当係長
二ノ宮真吾さん

もっとも身近な行政のクルマ 清掃車でもLPGガス自動車は活躍しています

「もう特別なクルマだというイメージはありません。この事務所では、すでに21台のLPGガス清掃車が稼働しています」と語るのは、世田谷区・砧清掃事務所の二ノ宮真吾係長。LPGガス自動車は平成8年度から導入が始まり、今年度末にはディーゼル車をしのぐ最大勢力となる見込みである(2tベース清掃車)。「コストとパワー、燃料インフラと低公害性。これらのバランスが評価され、採用されてきたもの。実績を着実に積み重ねてきた」と評価している。

清掃車は、毎日ほぼ決まったルートを巡回しながらゴミを集める。80万人都市である世田谷区は住宅地が多い。「静かでクリーンなLPGガス自動車にはそれだけ大きな信頼と期待が寄せられているのです」。また、作業員がクルマのまわりで収集作業を行うため、その点でも清掃車には優れた排ガス性能が求められている。

ちなみに砧清掃事務所にはCNG清掃車も現在6台ある。近くにLPGガスとCNGそれぞれの民間スタンドがあるが、最近、CNGスタンドに多少の混雑状況が見られるという。補給ペースはLPGガス自動車がほぼ3日に1回、CNG車は毎日か1日おき。「ほぼ決まった時間帯ルートを走る清掃車にとって、確実に効率よい運行のための条件整備が不可欠」と語る。

清掃事業は私たちの日常生活に密着した仕事である。LPGガス自動車は、環境配慮に対する自治体行政からのメッセージも込められているのかもしれない。

